

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校長名	所 在 地			
窪田理容美容 専門学校	昭和 51 年 9 月 3 日	池宮 慧泉	〒164-8585 東京都中野区中野 4-11-1 (電話)03-3386-6789			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所 在 地			
学校法人 窪田学園	昭和 47 年 10 月 27 日	窪田 多美子	同 上			
目的	美容師として美容師国家資格の資格取得をはじめ、ネイル、メイク、エステティック、 着付けまつ毛エクステンションなど専門の技術を習得する。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限(昼、 夜別)	全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数	専門士の付与	高度専門士の 付与
衛生	専門 課程	美容学科	2 年 (昼)	2,070 時間 (又は単位)	平成 12 年文部 科学大臣告示 第 15 号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	900 時間 (又は単位)	0 時間 (又は単位)	0 時間 (又は単位)	1,170 時間(又 は単位)	0 時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
480人	176人	22人	35人	57人		
学期制度	■前期：4/1～9/30 ■後期：10/1～3/31			成績評価	■成績表 (有 <del>一</del> 無) ■成績評価の基準—方法について 科目毎に試験を行う 100点満点60点未満は 不合格で追試験を行う	
長期休み	■春季休業 4/1～4/7 ■夏季休業 7/25～8/24 ■冬季休業 12/23～1/7			卒業・進級条件	所定の全教科目について履 修し、試験に合格した者	
生徒指導	■クラス担任制 (有 <del>一</del> 無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任が本人を指導するが欠席が 5日を超えた場合、保護者呼び 出しの上指導する。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 フランスへ研修旅行 各種専科 シネマメイク実習 ■サークル活動 (有 <del>一</del> 無)	
就職等の状況	■主な就職先 美容サロン、ネイルサロン、エ ステサロン、マツエクサロン ■就職率 99% ■卒業者に占める就職者の割合 ■その他			主な資格—検定	美容師国家資格、JNE ネイル 検定、秘書検定、アロマ検定	

中途退学の現状	<p>■中途退学者 8名 ■中退率 4.0% 平成25年4月1日在学者 200名（平成24年4月入学者を含む） 平成26年3月31日在学者 192名（平成26年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更</p> <p>■中退防止のための取組 校長によるカウンセリング 学生のやる気を持続させる為の各種イベントを学校全体で実施</p>
ホームページ	URL: <a href="http://www.kubota.ac.jp/wp-content/themes/kubota/img/school/provision/pdf/beauty.pdf">http://www.kubota.ac.jp/wp-content/themes/kubota/img/school/provision/pdf/beauty.pdf</a>

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとす。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、私学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生内のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

サロンにおける実践的な授業を実施するため、業界での新しい情報を精査し、時流に合う社会的・業界的ニーズに対応した理美容サービスを提供できる普遍的な実践力を養成していく事を基本方針とする。ただし、国家試験に関わる基礎的な技術も前提に置かれた教育課程の編成を教育課程編成委員会の意見を活用しつつ、企業等と共に実施していく。

具体的取組

- 平成23年度より美容実習の中に「まつ毛エクステンション」の授業を取り入れ、美容師免許有資格者しか施術出来ない技術として、美容学科学生全員に実施している。本実習授業を取り入れるにあたり、企業から技術指導を教員に対して実施し、協会団体の検定を取得させた。卒業後も協会団体会員としてまつ毛エクステンションの専門店へ美容学科卒業生を輩出するに至る。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年3月26日現在

名 前	所 属
池宮慧泉	窪田理容美容専門学校 校長
大平正司	理容芸術協会 (HSA 協会) 会長補佐
五十嵐義昭	有限会社 めばたま 代表取締役社長
大澤克喜	窪田理容美容専門学校 教務部長
窪田 寛	窪田理容美容専門学校 教務課長
窪田 崇	事務局

(開催日時)

- 第1回 平成26年9月26日 13:00~13:40  
第2回 平成27年1月24日 16:00~17:00  
第3回 平成27年3月26日 14:00~15:00 (予定)

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本学の企業等との連携による実習・演習等の基本方針は、本学の建学の精神「理容師・美容師としての専門の学理と技術を授け、公衆衛生の発展に寄与できる心身とも健全な社会人を育成すること」にあり、変化激しい現代社会に即応するために、世界的な視野から創造力を学び、自主性の確立に不撓不屈の精神を涵養することを重点とする」や校訓「忍耐・創造・独立」、さらに教育方針である「理容・美容の職業教育を通しての文化人たる教養と人格を培い良き社会人を造ることを教育方針とし、勉学に適した教育的な環境と完備した施設により優秀な専門の教師陣容を整え懇切丁寧に指導する」に基づいており、常に理容師・美容師を育成・養成する事に重きを置いた実習等の実施を心掛けている。

以下にある本学の教育目標として掲げる能力育成を行う為には企業等との連携は必須と考えている。

- ①コミュニケーション能力
- ②協調性・調和性を重んじ、問題解決する能力
- ③向上心と技術力
- ④人間的魅力

現在の理容・美容を取り巻く職業・職種の多様化は特筆すべきものがあり、本学の教育方針や校訓に挙げられているように創造性豊かな業界である。その為、法的整備も追い付かない程、激しく変動している業界の中で、法令遵守を念頭に置き、時流に合わせた社会的・業界的ニーズに対応した理美容サービスを提供できる普遍的な実践力を養成していく事を企業連携による実習等の基本方針として位置付けている。

美容学科における企業連携による実習等の位置付けは「即戦力となる美のプロデューサーとして活躍する為、ヘア・メイク・ネイル・着付け・まつ毛エクステなど様々なステージで活躍する美容師の可能性をイメージさせる目的」としている。

科目名	科目概要	連携企業等
メイクアップ技術 (シネマメイク実習)	映画の撮影現場において、学生が役者に対しヘアメイク等を実施する。	株式会社 アートポート
美容総合技術	高度な応用技術を実際に見せたのち、モデルウィックを使用し各々作品を仕上げて行く。	(有)めばたま (美容室)

美容実習 (校内技術コンテスト)	芸能人、モデルなど担当しているトップスタイリストによる作品評価及び技術指導。	(株)エターナル (株)レッドホット
メイクアップ技術 (特殊メイク)	映画等の撮影メイク及びミュージカル等の舞台メイク技術の取得	株式会社 三善

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学では、窪田学園 教職員研修規定に基づき教務部全体のは部長・課長により、各学科のものは、主任により研修計画を作成し、理事長・校長の承認を受け実施する。

関連企業・業界各種団体と連携しながら実施していくとともに、学園の教職員全体で取組んでいき、技術向上及び指導力向上につとめる。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 27 年 3 月 26 日現在

名 前	所 属
五十嵐義昭	日本ヘアデザイン協会 (NHDK) 理事
大平正司	理容室 ZANGIRI 代表
田中保範	東京都美容生活衛生同業組合 北葛飾支部 支部長
本田康博	本田美容商事 代表取締役社長
庄司直美	学生保護者

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページより閲覧可能

URL: [http://www.kubota.ac.jp/wp-content/themes/kubota/img/school/provision/pdf/26\\_2.pdf](http://www.kubota.ac.jp/wp-content/themes/kubota/img/school/provision/pdf/26_2.pdf)

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

学校案内

同窓会報誌

ホームページ

URL: <http://www.kubota.ac.jp/school/provision>

授業協科目等の概要

(衛生専門課程 美容 学科) 平成26年度										
分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			関係法規・制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて公衆衛生を担う、美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促す。</li> <li>美容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。</li> <li>衛生行政 ・美容師法 ・その他関係法規など</li> </ul>	1通・2通	30		○		
○			衛生管理	<p>(公衆衛生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の意義について理解させるとともに、公衆衛生が日常生活あるいは美容業とどのように結びつくか、公衆衛生の発展向上のために美容師として何をすべきかを理解させる。</li> <li>公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知らせる。</li> <li>公衆衛生は対人的な予防衛生と対物的な環境とに大別されることを知らせ、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることを理解させる。</li> <li>保健所の機能、組織、業務などについて知らせ、保健所が地域の保健衛生行政において中核的存在であること及び美容業と保健所は、密接な関係である事を理解させる。</li> </ul> <p>(感染症)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美容の業務を行う上で、どのような感染症に注意すべきかを具体的に示すとともに、その予防対策について統計的に理解させる。</li> <li>美容所における衛生処置、特に消毒の意義について、感染症対策と関連づけて理解させる。</li> </ul> <p>(衛生管理技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について理解させる。</li> <li>消毒方法の種類、原理、特徴について説明する。</li> <li>美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法を学ばせる。</li> <li>美容所において用いられている代表的な消毒方法について正しい操作方法を確実に身に付けさせる。</li> </ul>	1通・2通	90		○		
○			美容保健	<p>(人体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人体の構造と機能に関する基本的事項について理解させる。</li> <li>骨格、筋肉、各種臓器の種類、構造、機能について理解させる。</li> <li>人体の調整機能(神経、内分泌、免疫)の仕組みについて理解させる。</li> <li>人体の構造、機能と疾病に関連して理解させる。</li> </ul> <p>(皮膚科学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>皮膚の付属器官(毛髪、爪、脂腺、汗腺など)の構造について理解させる。</li> <li>皮膚の生理作用について理解させるとともに、これらの作用と美容との関係について学ばせる。</li> <li>毛髪、爪の生理的意義と特性について、美容技術との関連に配慮し、理解させる。</li> </ul>	1通・2通	120		○		
○			美容の物理・化学	<p>(物理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熱伝導、光、電磁気など物理の基本原則について、美容技術の実例に即して理解させる。</li> <li>美容で使用する主な機械器具の構造、原理、機能、操作方法について、物理の基本事項を学ばせる。</li> <li>刃物、はさみの材料として使用される金属の物性などについて学ばせる。</li> </ul> <p>(化学)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物質の相変化、溶液、酸アルカリ、酸化還元反応等の化学の基本原則を美容技術の実例に即して理解させる。</li> <li>化学薬品の取扱、溶液の調整法など化学に基本操作を身に付けさせる。</li> </ul> <p>(香粧品)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石けん、洗剤、化粧水、ヘアシャンプー、ヘアリンス、整髪料、養毛剤染毛剤、除毛剤、パーマ液など美容において使用される主な香粧品の種類、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意について理解させる。</li> </ul>	1通・2通	90		○		
小計			4科目				330時間			

授業協科目等の概要

(衛生専門課程 美容 学科) 平成26年度										
分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			美容文化論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく理解させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。</li> <li>・美容文化史 ・美容デザイン ・服飾など</li> </ul>	1通・2通	90		○		
○			美容技術理論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。</li> <li>・美容器具の正しい取扱の方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。</li> <li>・優れた美容技術は、経験によって得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを強調する。</li> <li>・器具の取扱 ・基礎技術 ・頭部技術 ・特殊技術など</li> </ul>	1通・2通	120		○		△
○			美容運営管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、美容所の経営に役立たせる。</li> <li>美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせる。</li> <li>・経営戦略 ・経営管理 ・労務管理 ・接客法など</li> </ul>	1通・2通	60		○		
○			美容実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これらの基本的操作を適宜組み合わせさせて完成する技術を習得させる。</li> <li>・美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。</li> <li>・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせる。</li> <li>・器具の取扱実習 ・基礎技術実習 ・頭部技術実習</li> <li>・特殊技術実習 ・和装技術実習 ・総合実習など</li> </ul>	1通・2通	870		△		○
	○		生活文化と作法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活における礼儀作法が美容師になる上で重要であることを認識させ、我が国の伝統文化の歴史と共に学ばせる。</li> <li>・美容師に特化した接客や言葉使いを理解させ、身に付けさせる。</li> </ul>	1前・2前	30		○		△
	○		造詣心理学と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容技術者のための『造形』であり、服飾研究者のためのそれでもあるという点で、独特の中味も持っていることを理解させ、デザインの専門書としての知識を学び、ヘアスタイルやメイクアップの調和、不調和を生み、効果を左右させることを理解させる。</li> <li>・美容デザインの造形 ・形の基礎研究など</li> </ul>	1後・2前	60		○		△
	○		カラーコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色彩の原理、色彩と心理、美容における色彩の意義と応用などについて学ばせる。</li> <li>・色の三属性、色の分類、配色の基本、環境と色彩、ファッションなど色に関する知識・技術を統計的に学び、色彩の実践的活用を身に付けさせる。</li> </ul>	1後・2前	30		○		△
	○		保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の運動の合理的な実践を通して、運動機能を高め、健やかな心身の形成、協調性の涵養を図る。</li> <li>・適度な運動や適切な休息が心身の健康増進のために重要であることを理解させ、生涯を通じて継続的に運動ができる能力と態度を育てる。</li> </ul>	1後・2前	30		△		○
	○		美容と食品栄養学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品保健・栄養の基本的概念を理解させ、食品保健の意義、食生活と健康との関係、バランスのとれた食事の重要性について認識させる。</li> <li>特に、食生活と全身状態や皮膚、毛髪との健康との関連について正しく学ばせる。</li> </ul>	1通・2通	60		○		
小計			9科目		1, 350時間					

授業協科目等の概要

(衛生専門課程 美容 学科) 平成26年度										
分類			授業科目	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
	○		エステティック技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の健康と美の実現にあることを理解させ、科学的事実と合理的思考に裏付けられたエステティック技術の重要性を認識させる。</li> <li>・歴史、理論、現状のほか各種のエステティック技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。特に、エステティック技術の効果と安全性に関する科学的基礎について十分に認識させる。</li> <li>・エステティック技術において用いられる主な薬剤や機器の基本的使用方法や使用上の注意を身に付けさせる。</li> </ul>	1通・2通	60		△		○
	○		メイクアップ技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイクアップの歴史、理論、現状のほか、メイクアップ技術の目的、種類、技術上の注意について学ばせる。</li> <li>・メイクアップ技術において用いられる主な薬品と器具との基本的使用方法を身に付けさせる。</li> </ul>	1通・2通	90		△		○
	○		美容モード論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容文化論において学習した造形、色彩、服飾等に関する基礎的技術を基に、顧客の個性、服装、その他の環境に応じてヘアスタイルを設計し、流行を創り出す能力を身に付けさせる。</li> </ul>	1通・2通	60		○		
	○		美容カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美容サービスの一環として行うカウンセリングの意義、目的、内容、実施上の留意点について、実施に即して学ばせ、美容師の業務を全うさせるためには、正確な技術を提供するとともに、顧客の要望に応じた適切なカウンセリングの実施が重要であることを認識させる。</li> </ul>	1通・2通	60		△		○
	○		美容総合技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身に付けさせるとともに、美容デザインの最新の国際的動向について学ばせる。</li> <li>・常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣づけさせ、専門技術者としての心構えを身に付けさせる。</li> </ul>	1通・2通	120		△		○
小計			5科目		390時間					
合計			18科目		2,070時間					